

備陽史探訪の会主催：青春切符の旅

丸亀城と善通寺

平成28年3月26日（土曜日）実施

講師 田口義之会長

スケジュール

- ◎ 7時24分発山陽本線普通「吉永行」乗車
↓
- 8時28分岡山駅3番ホーム着
(乗換え時間：12分、8番ホームへ集団で移動)
- ▽ 8時40分発岡山駅始発「快速マリンライナー13号」乗車
↓
- 9時27分坂出着(乗換)
- ▽ 9時27分発普通「南風リレー号」(琴平行)乗車
↓
- 9時40分丸亀着
(徒歩にて)丸亀城跡見学及び昼食
- ◎ 12時34分発「アンパンマントロッコ号」(琴平行)乗車
↓
- 12時51分善通寺着
(徒歩にて)善通寺偕行社・旧11師団司令部・大本山善通寺など見学
- ◎ 16時19分発「快速サンポート」(高松行乗車)
↓
- 16時43分坂出着(乗換)
- ▽ 16時54分発「快速マリンライナー」(岡山行)乗車
↓
- 17時32分岡山駅6番ホーム着
(乗換え時間9分：2番ホームへ集団で移動)
- ▽ 17時41分岡山駅始発山陽本線普通(三原行)乗車
↓
- 18時38分福山駅着：解散



備陽史探訪の会

国史跡「丸亀城跡」

丸亀市街地の南部に位置する亀山（標高 66 メートル）を利用し、縄張りはほぼ四角形で亀山の廻りを堀（内堀）で囲む、渦郭式の平山城である。石垣は、緩やかであるが荒々しい野面積みと端整な算木積みの土台から、頂は垂直になるよう独特の反りを持たせる「扇の勾配」となっている。山麓から山頂まで 4 重に重ねられ、総高 60 メートルの石垣は日本一高く、三の丸石垣だけで一番高い部分は 22 メートルある。頂部の本丸には江戸時代に建てられた御三階櫓（国重要文化財）が現存する。この建物は唐破風や千鳥破風を施して漆喰が塗られ高さは 15 メートルあり、現存三重天守の中で最も小規模である。

内堀の周囲には侍屋敷が建ち並び、この周囲を外堀が方形に取り囲んでいた。侍屋敷は明治時代に大半が取り壊され跡地に善通寺第 11 師団の丸亀歩兵第 12 連隊、裁判所や小・中学校などが建てられた。外堀は明治頃まで存在していたが、琴平参宮電鉄の路線延長とその後の廃線や旧国道 11 号（県道 33 号線）の整備などにより、年とともに減少し、一部残されていた南側の箇所も今は埋め立てられ、外濠緑道公園として整備されている。

城跡の全域は国の史跡に指定されており亀山公園となっている。天守のほかに大手一の門・大手二の門・御殿表門・番所・長屋が現存しており、そのうち天守・大手一の門・大手二の門は国の重要文化財に指定されている。天守の最上階からは、瀬戸大橋など瀬戸内の風景を眺めることができる。陸上自衛隊善通寺駐屯地に所属するレンジャー隊員による美しい石垣を守る為の清掃が行われている。

絵図と共に幕府に提出されたという「丸亀城木図」という木型の立体模型が残っている（丸亀市立資料館所蔵）。木型模型の現存例は丸亀城のものしかなく非常に珍しい。これは平成 4 年に丸亀市の指定有形文化財になっている。

国指定重要文化財「善通寺偕行社」（善通寺市文京町）

旧善通寺偕行社は、陸軍第十一師団の開庁に伴い、師団将校の社交クラブとして創設された。陸軍省営繕組織の設計で、明治 36 年の竣工と考えられる。現在は善通寺市立郷土館となっている。東西に長い木造平屋建で、主体部は桁行約 41.8m の規模をもち、北面中央は突出してその中央に玄関ポーチを付ける。南には芝庭が広がっている。

平面は、北面突出部の中央を玄関とし、その左右に同形式の応接室を設ける。廊下を挟んで南側中央に大広間、東端に南北二室の貴賓室、西端に食堂を配する。

旧善通寺偕行社は、簡明なルネサンス様式の意匠でまとめられた洋風建築で、陸軍省営繕組織の確立期における建築作品の作風をよく伝える貴重な遺構である。保存状態も良好で、四国地方における洋風建築の普及を知る上でも重要である。

善通寺「旧陸軍第 11 師団司令部」（善通寺市生野町）

同師団は、明治 29 年に増設が決定された 6 師団のうちの一つで、初代師団長は乃木希典。

建物は、玄関上部にペディメント（破風）を持つ屋根を配置する。玄関ホールには柱頭飾りを配した角柱が2本、続いて繰形の飾りを持つ親柱と手すりの付いた木製の階段が迎える。2階左奥が、旧師団長室で歴代師団長が使用した机と椅子が展示されている。建物の平面レイアウトは、両側が後ろにコの字形。車寄せは大正11の大演習のとき、増設されたとされる。この建物は、弘前、金沢、姫路の各師団司令部と形態が近似し、当時の規格化された陸軍施設の特徴をよく示している。陸上自衛隊善通寺駐屯地資料館「乃木館」として一般に開放されている。

大本山善通寺（善通寺市善通寺町）

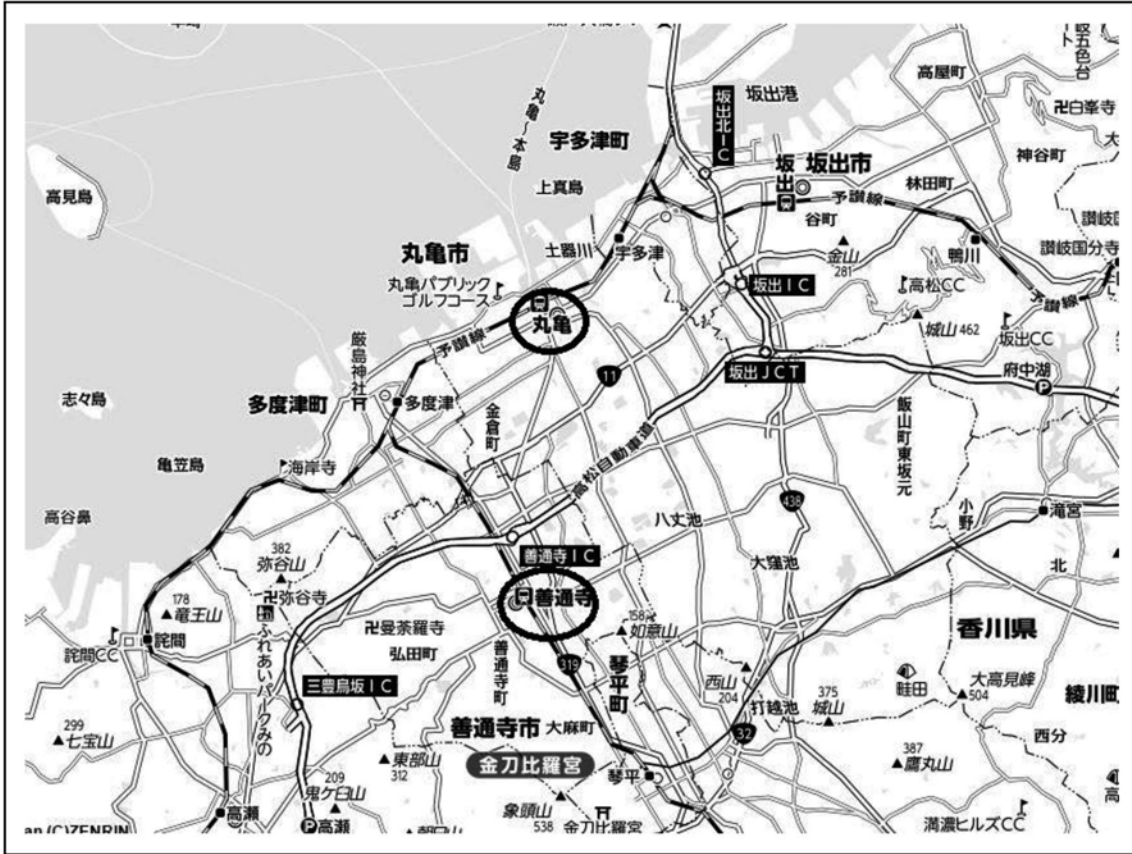
真言宗善通寺派総本山。屏風浦五岳山誕生院と号する。本尊は薬師如来。四国八十八箇所霊場の第七十五番、真言宗十八本山一番札所。平安時代初頭の807年に真言宗開祖空海の父である佐伯善通を開基として創建された。伽藍は創建地である東院と、空海生誕地とされる西院（御誕生院）に分かれている。

『多度郡屏風浦善通寺之記』によれば、善通寺は空海の父で地元の豪族であった佐伯直田公（法名善通）から土地の寄進を受け、大同2年（807年）に建立し始め、弘仁4年（813年）に落成したという。空海の入唐中の師であった恵果が住していた長安の青龍寺を模して建立したといわれ、創建当初は、金堂・大塔・講堂など15の堂宇であったという。寺号の善通寺は、父の名前である佐伯善通から採られ、山号の五岳山は、香色山・筆山・我拝師山・中山・火上山の5つの山の麓（ふもと）にあることから命名された。

善通寺の文献上の初見は、『東寺百合文書』に収められた寛仁2年（1018年）の「讃岐国善通寺司解」という文書である。ここで善通寺は、東寺の末寺として登場し、「弘法大師御御建立」「大師御霊所」とされ、空海の実祖父による創建だとする伝えが古くから存在したことがわかる。境内からは白鳳から奈良時代にさかのぼる古瓦が出土しており、善通寺は実際には佐伯一族の氏寺として創建されたのではないかと推定されている。

本格的に興隆をむかえるのは鎌倉時代に入って、天皇や上皇からの庇護や荘園の寄進を受けてからである。この保護の背景には、平安後期に広まった弘法大師信仰があり、誕生の地に伝わり大師自筆とされる「瞬目（めひき）大師像」への崇敬がある。建長元年（1249年）には誕生院が建立され、東の伽藍、西の誕生院という現在の形式が出来上がった。鎌倉時代の善通寺の本寺は、東寺、随心院、大覚寺、再び随心院と変転しつつも、室町時代以降は足利氏の庇護を受けつつ自律的経営を目指した。

永禄元年（1558年）三好実休の兵火に遭い伽藍を焼失するが、天正16年（1588年）に生駒親正から28石、生駒一正から35石の寄進を受けたことなどで立ち直る。近世には高松松平家や丸亀京極家の庇護を受けて大いに栄えた。近世の善通寺の史料は少ないが残された絵図類などから、金堂や五重塔などの再建に奔走する傍ら、西院の御影堂を中心に参詣空間を充実させ、19世紀前半には完成したのが見て取れる。また、明治に入ると付近に陸軍基地が置かれ、軍都として発展した。現在も陸上自衛隊善通寺駐屯地がある。



高巻切符の旅の「おきて」

- ① 切符は幹事が管理します、乗換時、改札は集団で行動します。単独行動は絶対禁止です。
- ② やむを得ぬ理由で集団を離れる場合は「必ず」スタッフに連絡、了解を取ってください。
- ③ 「迷い子」になった場合は直ちに下記の携帯番号に連絡してください

CONFIDENTIAL

(会長携帯)

備陽史探訪の会 事務局

〒720 - 0824 福山市多治米町5 - 19 - 8

TEL&FAX 084 - 953 - 6157

E-メール info@bingo-history.net

公式ホームページ

<http://bingo-history.net>